



# Newsletter 13

ニュースレター Vol.13 2012年5月17日発行

## 小網代野外活動調整会議・内閣総理大臣表彰

4月27日午後、千代田区永田町憲政記念会館において、内閣府主催・第6回「みどりの式典」が、天皇皇后両陛下御臨席のもと、開催され、NPO法人小網代野外活動調整会議が、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰（今年受賞は4個人、11団体）を受けました。

2011年、小網代の森は、完結した流域生態系としての重要性を大きな根拠として、国土交通省の制度である近郊緑地特別保全区域として完全保全されました。2009年の「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰に続き、国土交通省のご推薦をうけての今回の受賞は、流域視野の生態系保全をめざす全国の動向にも、さらに大きな励みとなってゆくことと思います。

式典には岸ほか、浪本、宮本両理事が参加。神奈川県環境農政局 水・緑部 自然環境保全課の常盤さんが付き添って下さいました。懇親会では、両陛下、野田総理と歓談する時間がありました。陛下には、順調にすすめば2014年春、県による散策路（階段・木道など）が完成するとお知らせし、ハゼ研究者として小網代保全にご関心を向けて下さったことへの感謝もお伝えすることができました。

今回の表彰にあたり、小網代保全への長いみちのりを進め支えて下さったすべての皆様、とりわけ多難きまるる状況の中で保全を決断しご賛同いただいた行政、地権者の皆様に、心よりのお礼を申し上げます。調整会議は、今回の受賞をさらなる励みとし、いっそうの協働と工夫をもって、小網代保全を支えてまいる所存です。

岸 由二

## TOPICS

- 12月4日（日）、（財）かながわトラストみどり財団主催で「かながわのナショナルトラスト25周年記念シンポジウム」が開催されました。
- 12月18日（日）小網代応援団向け特別干潟観察会を実施しました。
- 3月10日（土）第2回ココボラは残念ながら雨天中止になりました。
- 4月27日（金）NPO法人小網代野外活動調整会議が緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞を受賞しました。



# 定例管理作業報告

原則として毎月第3日曜日に実施しています。

☆10月16日（27名）

A班：河口部砂洲域のササ刈り（刈払機使用）

B班：刈ったササを山側裾に運搬・堆積、「立ち入り禁止」看板設置

☆11月20日（24名）

中央の谷状況視察後

A班：河口部砂洲域のササ刈り（刈払機使用）

B班：刈ったササを山側裾に運搬・堆積

☆12月18日（25名）

A班：河口部砂洲域のササ刈り（刈払機使用）

B班：刈ったササを山側裾に運搬・堆積

C班：エノキ広場から約70m先まで刈込み、津波避難路を確保

☆1月15日（26名）

A班：津波避難路を延伸

B班：真ん中広場のササ刈り（トキワツユクサー一斉除去に向けて）、  
新堰築造

☆2月19日（22名）

A班：津波避難路を延伸

B班：フクロウ尾根から真ん中広場入口に減勢用の木杭堰設置

C班：真ん中広場下手の川辺のササ刈り

☆3月18日（24名）

A班：津波避難路、防火帯、水路設計の予定地を兼ねた  
山すそをササ刈り、延伸

B班：真ん中広場の水路改修

C班：鉄板道周辺のアシ原の伐開（刈払機使用）

D班：浦の川中流域岸辺の中高木の伐採



\*2月23日に予定していたトキワツユクサー一斉除去作業は雨天のため中止、  
3月10日に予定していた臨時作業（トキワツユクサー除去も含む）も雨天のため中止しました、

2012年度も以下のような管理活動を予定しています。

- ・大蔵緑地の整備に加え中央の谷各地の谷底で湿地環境回復を軸として保水・集水環境整備を進める。
- ・大蔵緑地とその後背谷戸については植生を整理してアカテガニ生息環境の整備を進めるとともに、南側尾根について津波避難路の機能も備えた管理通路の整備を継続する。
- ・冬期には有害外来植物ノハカタカラクサの一斉除去作業を実施する。
- ・以上に関連したボランティア、一般訪問者への対応も進める。

## ・カワニナとイシマキガイからみる浦の川水系の回復

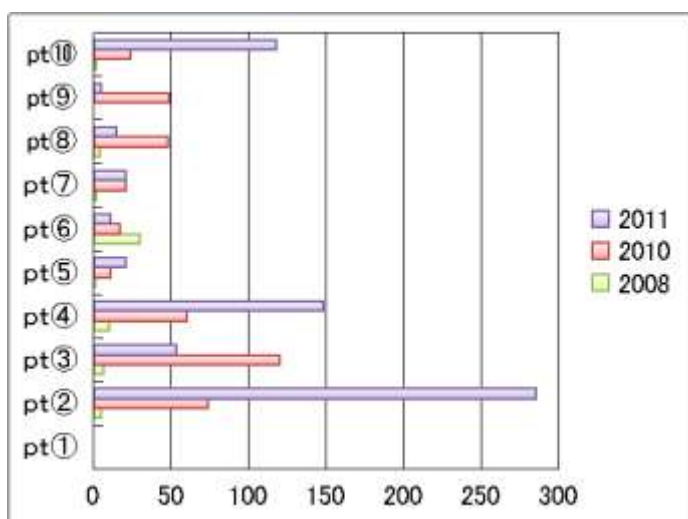
小網代野外活動調整会議では 2008 年から、浦の川本流（流程 1200m ほど）及びその水系と河口にひろがる干潟域を継続的に調査を行っています。その間の変化は大変めざましいものでした。継続調査を開始した 2008 年当時のごく限られた管理作業しか行われておらず、耕作放棄された 1960 年代から木々は伸び放題で川の上部を被ったため暗黒化が進み、岩盤の上を通されていた流れは、流路を変えて粘土の上を流れるようになったため河道は深く彫りこまれ、湿地に水をもたらしことなく流下してしまうので乾燥化が進んでいました。また、洗掘が進み段差ができたことに加え、方々で崩落が起きていて河道をふさいだ結果、すっかり生物が遡上しづらい川になってしまっていました。

しかし、その後保全が決まり、2009 年からは管理作業が可能となり、暗黒化を解消や遡上をさまたげる障害の撤去などに力を注いだところ、目に見える変化があらわれだしました。一つはカワニナやイシマキガイの急増です。藻類を食べる貝なので、伐採を行って川底の岩盤に日光が届くようになった所では 10 倍以上の個体数が確認された地点もありました。

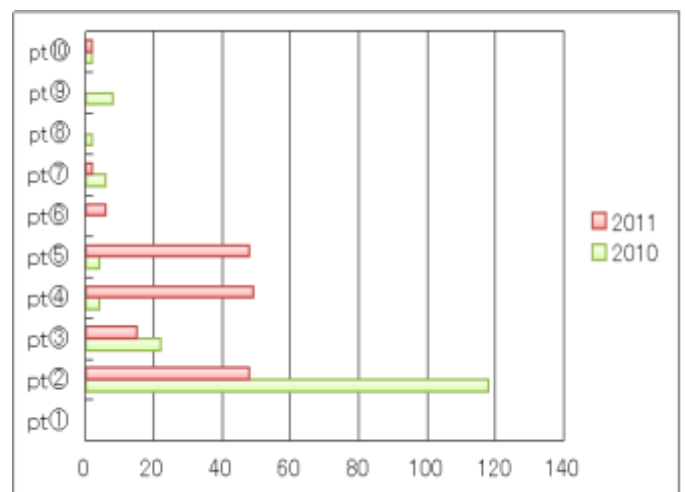
こうした管理作業に加え、2011 年には源流域での大規模な伐採と水道管工事前の予備調査のための笹刈りが行われたため、多くの場所で日照が回復し、2012 年の予備調査ですでにカワニナとイシマキガイの増加が認められています。また、確認された個体も 10mm 以下の弱齢個体が多く、生息環境が改善された事がうかがえます。

この二種類の貝はゲンジボタルの幼虫の主要な食物でもあります。餌の増加は当然ゲンジボタルの増加にも結びつくでしょう。今年はゲンジボタルの乱舞が見られるのでしょうか。今から大変楽しみです。

カワニナの個体数動向



イシマキガイの個体数動向



## 干潟保全 貴重種調査・ココボラ実施・アマモ場回復へ

2011年、神奈川県による小網代の谷の完全保全宣言をうけ、私たちの定例的な活動は、①2014年の一般公開にむけた谷の自然の回復維持事業と、②干潟保全にむけたあらたな取組みの、2つの領域をカバーしてゆくことになりました。本当に幸いなことに、前者の活動については、かながわトラストみどり財団の助成を継続していただけることとなり、さらに後者の活動については、2012年度、地球環境基金による助成が決定しました。

新たに本格的な活動を開始する、干潟保全の分野では、干潟の生物調査、アマモ場に注目した保全回復活動、そして、地元行政、県、企業、地域、漁協にもご協賛をいただき、こどもたちを中心にすすめる、「こども小網代ボランティア」(ココボラ)の年3回の開催などが、助成対象となってゆきます。

ココボラについては、来月9日、第三回実施が決まり、広報をはじめます。干潟の調査は、小倉、柳瀬、岸理事、江良インストラクターほかを中心とした体制で、すでに順調なスタートを切っております。軟体動物を専門とする小倉さんによる貴重種の調査、江良さんによる干潟生物の詳細イラストの紹介、ぜひ、ご期待ください。

アマモ場については、昨年3月11日の震災の余波をうけ、小網代湾でも数日にわたり激しい波が繰り返し押し寄せて、河口干潟からアマモ場にかけて、底泥が15センチ前後の厚さで流失してしまい、湾奥部のアマモは全滅状態となってしまいました。1年後の再生を確認するために、去る5月7日、大潮の引き潮にあわせて旧アマモ場一帯の調査を行いました。長靴で同地を涉り、リビエラリゾート社から支援の小船も出してもらって目視しましたが、生育を確認できたのは、3000㎡規模の領域で、15株のみ。泥にごりがあったり完全な確認はできなかったものの、小網代湾奥のアマモ場はまだ壊滅状態がつづいていることが判明。専門家のアドバイスによれば、自然状態での回復には、なお長期の時間がかかるだろうとのこと。このままでは、湾の海産生物の繁殖や育成、さらには、谷のアカテガニたちの生活史にも多大なマイナスの影響も、長期にわたって続いてしまう可能性があります。根本的対策としては、近隣の相模湾沿岸からの、アマモ移植を検討するほかなさそうな状況です。

既に本件については、専門家のアドバイスをうけながら、三浦漁協、神奈川県自然保護課、三浦市とも意見交換をすすめ、体制を工夫し始めております。可能であれば6月にも、第一弾の移植が工夫できればと、思っております。



2007年6月17日：群生するアマモ

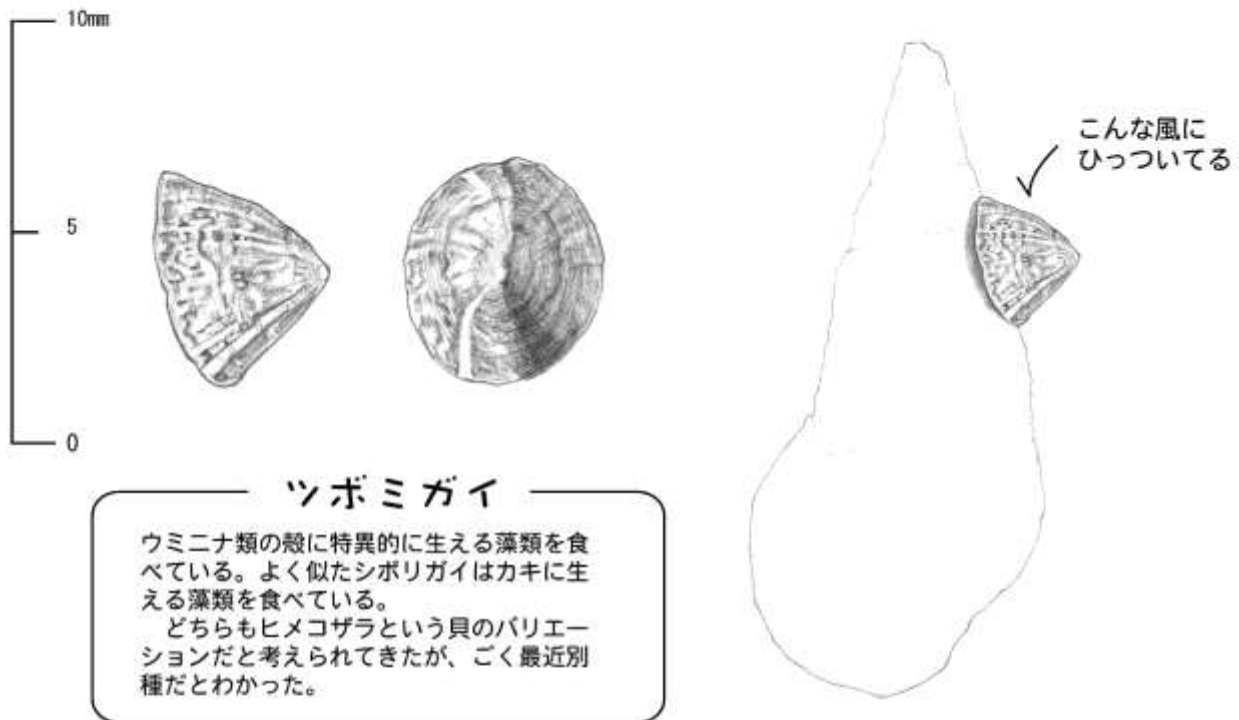


2012年5月7日：左と同所拡大・アマモ壊滅

# 小網代の干潟にまつわる物語



## < ツボミガイ > ー小網代干潟を象徴する小さな貝ー



ウミナ類の殻に特異的に生える藻類を食べている。よく似たシボリガイはカキに生える藻類を食べている。  
どちらもヒメコザラという貝のバリエーションだと考えられてきたが、ごく最近別種だとわかった。

小網代の干潟を歩くと、歩くのが気の毒になるほど小さなとがった貝が住んでいます。これはホソウミナナという貝で、全国の干潟に普通に見られる種類です。さて、この貝をよく見ると、なかに角が生えたようになっているものが結構な割合で見られます。これは角が生えているのではなく、ツボミガイという貝が、ウミナナに生える藻類を食べるためにひっついてるのです。

このツボミガイが今回の主役です。一見なんてことない小さな貝ですが、東京湾と相模湾を見渡しても、小網代ほど高確率で見つかる所はなく、多くの干潟で消失してしまった種類なのです。それが証拠に、色々な貝の図鑑を見ると、この貝の産地はほとんどと言っていいほど小網代湾になっています。

ホソウミナナはどこにでもいるのに、それにつくこの貝がどうして希少種になってしまったのでしょうか？

それは、ホソウミナナはどこでも暮らせるけ

れど、それに生える藻類が小網代湾でなければ生きられないようなのです。原因ははっきりしませんが、小網代の谷は森から干潟まで分断されておらず、森からの栄養塩が豊富に干潟にもたらされます。その事が我々の目に見えない藻類の多様性を支えていて、ウミナ類に生える藻類も生える事ができる。結果、ツボミガイも生きられる、そんな事らしいのです。

実際、調整会議の小倉さんが三浦半島の干潟を見て歩いても小網代以外でツボミガイを見つけられていないそうです。他の場所では欠けてしまった命の連環が、ここ小網代ではまだつながっているのです。この小さな貝が今も普通に見られると言うこと、それは「流域一体で保全する」ことの意味の大きさを物語っています。

この貝を守るためには森と干潟双方の保全が欠かせません。こんなに小さくて地味な貝ですが、小網代の価値を象徴するような生きものなのです。



## 第3回 こども小網代ボランティア・クリーンアップのご案内

小網代保全ならびに活用に、地元のこどもたち、各地の小網代ファンのこどもたちの参加を促すことを主旨として、以下の要領で2012年初夏のこども小網代ボランティア（ココボラ）イベントを開催します。

★日時：2012年6月9日（土）

13：30 白髭神社前 または 13：00 三崎口駅改札集合（トイレは事前に済ませましょう）

16：00 解散（参加無料 雨天中止）

★企画内容

- ・13:30 受付開始                      ・13:45 主催者・共催者挨拶
- ・14:00 スタッフの案内で自然観察しながら簡単なクリーンアップ。
- ・15:30 お楽しみ水族館 小網代の水生生物を野外水族館形式で紹介します。
- ・16:00 大蔵緑地で終了式（記念の参加証あり）



第3回・ココボラ  
2012年 初夏干潟

★ 主催：NPO 法人小網代野外活動調整会議

★ 共催：三浦市

★ 後援：神奈川県 （財）かながわトラストみどり財団 みうら漁業協同組合  
（株）リビエラリゾート （株）京急油壺マリンパーク ほか（一部予定）

● 申込み先：NPO法人小網代野外活動調整会議

3年生以上の小学生・保護者同伴 先着順 保護者同伴80名募集

（汚れてもいい服装、長靴またはぬれていい靴、タオル、飲み物）

「ココボラ申込み」と明記して FAX でお子様・保護者の氏名、住所、電話連絡先を  
お知らせください。

FAX 送付先： 045-546-4344

電話でのお問い合わせ： 045-540-8320 浪本・岸



# カニパト2012のお知らせ

今年もアカテガニのお母さんたちが安心してお産（放仔）できるように、パトロール活動（通称カニパト）を実施します。

I期:7月22日(日) 17:55

II期:8月4日(土)・5日(日) 17:40

III期:8月18日(土)・19日(日) 17:25

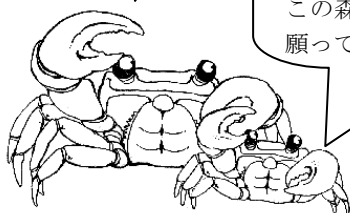
IV期:8月31日(金)・9月1日(土) 17:10



- ・ 上記の期日午後17時～、小網代湾の最奥・アカテガニ広場で実施します。ご来訪のみなさまに観察方法・マナーの説明をし、観察場所へご案内します。（日没時刻により観察時間が変わります。左記の開始時刻までにアカテガニ広場にお越しください。なお観察終了は20時頃の予定です。途中からの参加、途中での退出はご遠慮ください。）
- ・ 個人のご来訪の場合は申込み不要ですが、大人数（6名以上）・団体でご来訪の場合は事前にNPO法人小網代野外活動調整会議まで連絡をお願いします。
- ・ 当日荒天により、観察が中止になる場合もあります。ご了承ください。ホームページに中止を掲載します。
- ・ 懐中電灯、海水にぬれてもよい足まわりをお願いします。（長靴が最適）
- ・ 地元の方に迷惑をかけるような行為は避けましょう。
- ・ 森の中にトイレはありません。
- ・ 小網代の森の保全区域は現在神奈川県により整備中で、通行の自粛が要請されています。特に夏の時期は森の中(中央の谷)は藪が深く、危険です。マムシ、スズメバチもいます。通行はご遠慮ください。
- ・ このカニパト活動は、NPO法人小網代野外活動調整会議（TEL：045-540-8320）が神奈川県自然環境保全課・（財）かながわトラストみどり財団と連携して、実施します。

私たちは光や振動にとっても敏感。  
だからマナーを守って、しずかに  
観察してね。

私たちのすむ小網代の森は、森と川  
と干潟と海がひとつにつながった、  
豊かな自然が残る場所です。  
この森をいつまでも残してほしいと  
願っています。



アカテガニのお願い

★アカテガニは森に住むカニです。放仔のときだけ、海辺に下りてきて、お腹にかかえた卵（幼生）を海水に放ちます。アカテガニは大潮の日に多くお産（放仔）をします。日没直前にお産（放仔）は始まり、約1時間で終了します。

★幼生は海で育ちます。何度も脱皮をくりかえし、約1ヶ月すると小さなカニになって、陸に戻ってきます。そして森でくらしします。森と海とがつながった自然がないと生きていかれません。

## 2011 年度後半の森の活用・活動実績

- ・ トラスト緑地保全支援事業

10月16日(27名)、11月20日(24名)、12月18日(25名)、1月15日(27名)、2月19日(22名)、3月18日(24名)

## 2011 年度後半の小網代の森の主な利用実績

- ・ NPO法人小網代野外活動調整会議環境教育支援学校・団体(参加者数+スタッフ数)

10月18日 横浜市立上飯田小学校(93名+5名)

3月11日 NPO 法人四街道メダカの会(46名+3名)

- ・ 上記以外の案内、および、独自の観察会等

10月16日 かながわトラストみどり財団主催自然観察会(10名+3名)

10月18日 トラスト湘南地区推進協議会みどりの実践団体交流会(48名+4名)

12月18日 応援団観察会(7名)

- ・ 小網代学習ボランティアウオーク

10月16日(0名)、11月20日(0名)、12月18日(0名)、1月15日(1名)、2月19日(6名)、3月18日(2名)



## 事務局より

- ◆ 毎月第3日曜日を定例活動日とします。事前に参加登録をお願いします。

定例管理作業 (10時三崎口集合、16時現地解散)	2012年 5月20日、6月17日、7月15日、9月16日 雨天実行 軍手・食料・長靴持参 雷警報発令時には中止あり
カニパトロール(15時30分三崎口集合、 20時30分現地解散、ブレのみ14時)	2012年7月21日プレカニパト(スタッフ研修) 第1期:7/21 第2期8/4,5 第3期:8/18,19 第4期:8/31,9/1

- ◆ 6月9日(土)午後、第3回こども小網代ボランティアを実施いたします。参加希望者は事前に FAXにてお申込みください。小学3～6年生と保護者対象。詳細は6ページをご参照ください。

- ◆ 小網代応援団にご登録ください!

小網代を指定してくださるトラスト緑地保全支援会員の皆さんの自己申告を受け、調整会議と日常的に交流していただける小網代応援団の組織化を目指しています。小網代の森緑地の保全に協力していただけるトラスト緑地保全支援会員1000名、応援団300名を目指します。小網代を指定して下さっているトラスト緑地保全支援会員であればどなたでも登録できます。当事務局あて応援団登録申請お待ちしております。事務局より、特別自然観察会(年2回実施予定)などのお知らせをさせていただきます。くわしくは事務局まで。

- ◆ 昨年12月の(財)かながわトラストみどり財団主催「かながわのナショナルトラスト25周年記念シンポジウム」の内容が財団の機関紙ミドリの記事(84号)にまとめられています。また、シンポジウム参加者には冊子が配布されました。ミドリは財団のホームページ(<http://ktm.or.jp/>)でも閲覧できます。

特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議

連絡事務所 〒223-0053 神奈川県横浜市港北区綱島西2-5-10 コーリン綱島4F

TEL 045-540-8320 FAX 045-546-4344

ホームページURL=<http://www.koajiro.org/> E-mail: [koajiro@koajiro.org](mailto:koajiro@koajiro.org)

会費・寄付金払込先:郵便振替口座 00240-1-95307 特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議